

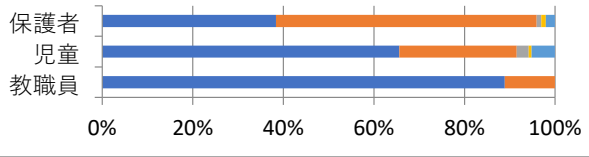
# 令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

## ①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

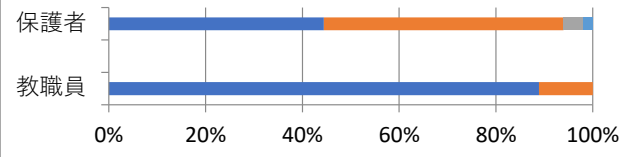
### 1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。



### 2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

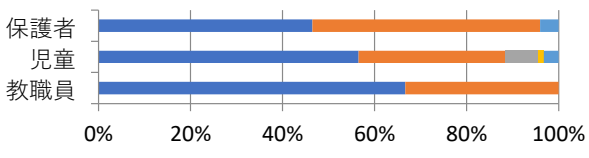


考察 心の教育については、保護者・児童・教職員と9割を超え支持されている。子どもたちの「笑顔」を大切にされた先生方のかかわりや道徳の授業や縦割り班活動等を通しての「思いやり」を育む教育の成果だと感じている。また、「きずなアンケート」だけでなく、情報交換会や担任以外の職員によるかかわりを増やす中で、子ども1人1人の変化を見取り、支援へつなげていけていることも大きいと感じる。保護者に対しては、授業参観や学級懇談会を通しての連携もできるようになり、さらに子どもたち1人1人のよさを伝え、連携を密にしていきたい。

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

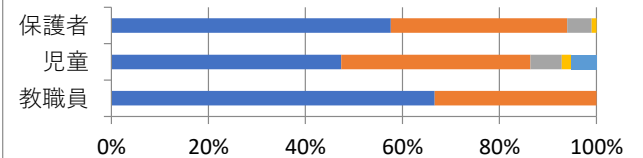
### 3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



### 4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

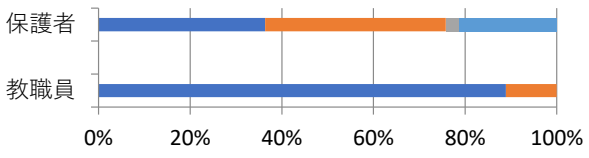


考察 わかる授業、楽しい授業への保護者、児童の割合は昨年度より高く、「ICTを活用した自ら学びとる授業」の良さを実感していると思われる。授業参観等も再開し、先生方の社会の変化に対応した授業づくりの成果だと思う。タブレットの活用においては、教職員・保護者の「そう思う」の割合が昨年度より大きく増えている。授業での効果的な活用場面が、実践の積み重ねで見えてきたとともに、保護者にもその良さが伝わっているもの思う。さらに活用の良さを子どもたちが実践できるような授業づくりに取り組んでいきたい。

## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

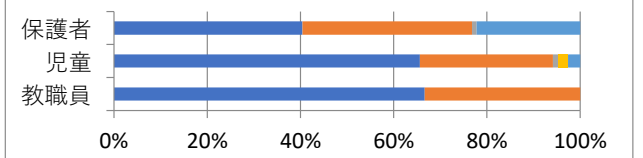
### 5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思います



### 6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察 学校の支援体制については、教職員の「そう思う」の割合が昨年度より増え、全職員で子どもたち1人1人の支援にかかわっていることがわかる。今後も、情報交換会や校内支援委員会を充実させ、児童理解を深めていきたい。「交流及び共同学習」については、保護者の無回答の割合が2割を超えている。保護者にとっては、その取り組みが見えにくい、分かりにくい面があると思われる。教職員も含め、児童・保護者へ「交流及び共同学習」の取り組みへの意義やねらいについて丁寧な説明や情報提供が必要だと感じる。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>考察 安全教育については、地理的な環境をもとに地域の方からの情報や子どもたち同士の気づきから、学級で考える場面もあった。その都度、子どもたちは自分たちの登下校の仕方を考えてきた。安全な登下校や交通安全に向けた自主的な取り組みをさらに支援して行きたいと思う。家庭や地域との連携については、「そう思う」の割合が9割を超えている。学校だよりや学級通信、学校ホームページの校長ブログで児童の様子を伝えたり、児童の頑張りを直接伝えたりしている成果だと思う。今後も連携・協力を深め、ともに児童の成長につなげていきたい。</p>	

⑤ 河内小学校の教育

9 教育目標『笑顔』	10 教育目標『元気』
子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	子どもは、好き嫌いなく食事をし、適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。
<p>考察 『笑顔』については、保護者・教職員の「そう思う」の割合が昨年度より大きく増えた。児童の友だち関係や学習の様子等、友だちとの良好な関係や表情がしっかりと周りの大人に伝わっている成果だと思われる。また、学校集会の場で『笑顔』の大切さが児童に伝わり、児童自ら「笑顔」「思いやり」の実践につなげていると考えられる。今後も、教育目標をみんなの合言葉として、実践につなげていきたい。『元気』については、外遊びの励行や体育委員会の取り組み等、『元気』への実践が昨年度より「そう思う」の割合アップにつながったと思われる。</p>	

⑤ 河内小学校の教育

11 教育目標『やる気』	
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	
<p>考察 『やる気』については、保護者の「そう思う」の割合が増え、授業参観等が再開したことが要因だと考えられる。また、児童の学びの様子からも、教わる姿勢から自ら学び取る姿勢へと変わりつつあるとの成果もあると考えられる。今後も、子ども主体の「学びとる」授業づくりへ全職員研修を深めていきたい。</p>	

## 来年度の具体的な取組について

- 1人1人のよさを全職員で共有する情報交換会を今後も継続するとともに、子どもの些細な変化を見逃さないためのアンケートや保護者との連携、SCやSSWの積極的活用を行う。また、来年度も助産師さん等専門家による講演会を実施し、心の教育を充実させていく。
- 授業力向上へ向けて、指導主事等外部講師を招いての授業研究会を継続して実施する。また、ICTの効果的活用へむけて、ICT支援員の協力を得ながら実践を続けるとともに、「しごと学ぶWEBライブ」等の外部機関との連携によるキャリア教育の充実にも努める。
- 教職員も含め、児童・保護者へ「交流及び共同学習」の取り組みへの意義やねらいについて丁寧な説明や情報提供を行い、児童の間づくりや相互理解の充実に努める。
- 小中一貫校として、中学校の文化祭やスクールコンサート等行事を通しての交流もできるようになってきた。さらに、運動会や避難訓練等での連携や協力を行い、「目指す子ども像」へ向けての取り組みを強化していきたい。
- 学校教育目標については、児童の身近な合言葉になり、日々の学校生活への道しるべとなっている。今後も、学校通信やホームページ、学級通信等でも保護者や地域へ取り組みの様子を丁寧に、そしてタイムリーに伝えていきたい。

## 学校関係者評価

- 子どもたちがタブレットをしっかりと使って学習していて感心している。
- 縦割り活動での活動や掃除で、6年生が低学年に優しい対応等している様子が感じられる。続けてほしい。
- 地域で子どもから挨拶をしてくれる。学校でのよいあいさつの延長が地域で発揮できていて素晴らしい。
- 地域でトラックもよく通り、心配な道路もある。道路環境の整備をいろいろなところに呼び掛けているが、子どもたちにも安全な登下校を呼び掛けてほしい。
- 小中一貫教育で、運動会が一緒にできていないのが少し寂しい。運動会に限らず、連携した取り組みを増やしてほしい。
- 学校ホームページで、子どもたちの様子がよく分かるので、地域に学校の良さを紹介していきたい。